令和６年度
岡山高等学校　選抜１期　一般入学試験問題

国　語　（45分　100点）

・合図があるまで、この冊子を開いてはいけません。
・解答はすべて指示に従って解答欄に記入しなさい。
・問いに字数の指定がある場合は、句読点や記号も一字に数えて解答しなさい。

1

次の文章は、十四歳の「まりも」が愛馬「サイファ」とともに、「エンデュランス」と呼ばれる馬術の長距離耐久レースで、野外コース八十キロの完走を目指している場面です。〈レグ〉（＝区間）ごとにある獣医による馬体の健康チェックも無事にクリアし、トップを走る「高岡」に追いついた「まりも」でしたが、「サイファ」の肩にわずかな異状が見つかりました。これを読んで、①～⑥に答えなさい。ただし設問の都合上、本文を一部省略した箇所があります。

サイファの速歩は、もうほとんど歩きに近いくらいの重さだった。

目の端に、手綱を結んだ余りの革紐が映る。これを振り回して一発鞭をくれてやれば、サイファはびくっとなって、いっぺんにきびきびと走りだすだろう。エンデュランスの競技ルールで鞭と拍車は使用を固く禁じられているけれど、今なら……この林の中でなら、誰も見てなんかいない。一発や二発くらいなら痕も残らない。ほかの馬術競技だったら、あるいは調教中にだって、ごく当たり前に行われていることだ。

でも――と、まりもは唇を噛んだ。

なぜだろう、いやなのだ。ⓐ何があろうとそれだけはしたくなかった。

偽善者ぶっているつもりはない。どんなに弱くていいかげんな人間かは、自分がいちばんよく知っている。

ただ、こういう瞬間にだけは、大事な何かをごまかしたくないのだった。どんなに馬が動かなくても、そのへんの枝を折り取って尻をひっぱたいたりはしたくない。人に対してより何より、馬に対してフェアであることを放棄してしまうくらいなら、最初からこんな競技に出なければいいのだ。長い、ながい距離を共に走りきった時、馬の目をまっすぐ覗きこめる自分でいられないのなら、今のこの苦しさにさえ何の意味もなくなってしまうじゃないか。

ゆっくり、ゆっくり、まりもは速歩と常歩を交互に続けた。（中略）

最後のクルー・ポイントは、ゴールから十三キロ手前の、大きな川を渡った先にあった。向こう岸には、志渡と理沙とがすでにスタンバイしていた。

急な土手の斜面を、一歩ずつ上手に下りたサイファは、けれど、川の真ん中で突っ立ったまま彫像のように動かなくなってしまった。

水を飲みたいのではない。冷たい水が肢に気持ちいいのだ。というよりも、もうこれ以上、一歩も動きたくないのだ。

まりもは、鞍の上から体を傾けてサイファの目を覗きこんだ。黒々とした瞳にきらきら光る川面が反射して、吹き渡る緑の風がその白いたてがみをそよがせている。

唐突に、声をあげてⓑ泣きそうになってしまった。

川底の小石を見おろしながら、自分自身の胸の底をまさぐる。

――さあ、どうする。

むずかるサイファをどうにか促し、志渡たちの待つほうへと斜面を上がった。

「どうする？」

全部わかっているみたいに、志渡がまりもを見あげた。

「肩……やっぱりかばってるよね」

と、まりもは言った。
「うん。そうだな」
「でも、そんなにひどくはない？」
「うん。ひどくはない」
「ここから先、あたしが下りて、サイファを曳いて走ったら、このびっこ治るかな」
「無理だと思う。獣医検査はもしかすると誤魔化せるかもしれないけど、痛みはしばらく残るんじゃねえか。たぶんね」
まりもは、激しく迷った。
もう一度、自分で自分を問いただす。
「わかった」まりもは言った。「ここでやめる」
「いいのか？　お前はそれで」
「いい。全然かまわない。サイファには、まだまだ先があるもの。優勝がかかってるわけでもないのに、今ここで無理させることに意味はないと思う」
「じゃあ、本部に電話して、馬運車まわしてくれって連絡していいか？」
「はい。お願いします」
すると志渡は、
「よし。オッケー」
明るく声を張って言った。むしろ志渡自身が、この瞬間に何かをふっきったようにも見えた。（中略）
ゴールゲートをくぐることなく獣医検査場へ行き、最後のチェックをしてもらう。なんと、心拍をふくめてサイファの検査結果はオールA、歩様にも異状は認められず、志渡に曳かれたサイファは軽快な速歩で獣医師たちの前に駆けてくると立ち止まり、ふう、と大きなため息をついた。
第三レグのスタートを見ていてくれた獣医師長の浅野が、ⓒ慎重に肢を触り、まりもに向き直って言った。
「あの時点以上には、悪くなってないよ。よっぽど上手に乗ってきたってことだね。したけど、ここで最後に無理をさせなかったことが、この馬のためには絶対によかった。棄権は勇気ある決断でした。これこそがエンデュランスの精神というものです。お疲れさまでした」
口々にねぎらってくれる獣医師たちや大会スタッフに、ヘルメットを取って、ありがとうございました、と頭を下げながら、まりもは、まⓓた泣きそうになってしまった。
悔しさに、ではない。誇らしさに、だった。
後になってふり返れば、すべての敗因は、高岡たちに追いついたあのあたりにあったのかもしれない。二十分という時間差を、距離にしてほんの十五キロほどの峠道で一気に詰めた時点で、サイファの疲れは最高潮に達していたはずだ。
追いつかれたことに気づいた高岡が、まりもを引き離そうと馬に蹴りをくれて駆けだしたあの時、まりもは本来ならばサイファをⓔ抑えてやらなくてはならなかった。なぜなら、サイファがそこまで懸命に走り続けてきた間じゅう、高岡たちの馬は、少なくともサイファよりはるかに遅いペースで体力を温存していたのだから。
レースの翌々日、志渡からその分析を伝えられた時、まりもはただただ納得する以外なかった。まさにそのとおりだと思った。

そうして、今になるとまりももまた思うのだった。
木々の陰に、前をゆく高岡の赤いシャツを見つけたあの時、あえてこっそりペースを落としていたらどうだっただろう。感情にまかせてぎりぎりまで追いつめたりせず、彼らが追いつかれていることに気づかないくらいの距離をおいて、それこそ志渡の言っていたようにひたひたと後ろを付いていっていれば……今ごろ、レースの結果はひっくり返っていたかもしれない。
「失敗すると、完走したときの百倍ものを考えるよな」と志渡は言った。「サイファの、現時点での弱点や限界も少し見えてきたしな」
もしも何ごともなく優勝なり完走なりしていたら、喜び以外に、ⓕ今ほどの収穫はなかったかもしれない。馬に負担をかけずに上手に乗るための技術とはまた別に、エンデュランスには、かつて漆原（うるしばら）が言っていたとおり、この競技特有の「レースの組み立て方」というものがある。速さや持久力を競う中にも、コースに合わせた頭脳プレイの部分がたしかにあるらしいのだ。
「あたしも、あたし自身の悪いとこがはっきり見えたよ」
「いいことだ。サイファと同じで、それだって『現時点での』ってことだもな」
今度こそ――と、まりもは思う。次に挑戦するレースこそは、誰にも文句を言わせないくらい見事に完走してみせたい。できるだけいいペースを保ちつつ、確実に八十キロの完走を狙っていきたい。
「そだな」
と、志渡は言った。
「ただし、あくまでも『いいペースを保ちつつ』だからな。完走狙いだからって、最初からビリッケツをのろのろ行くのって、俺あんまり好きじゃないから」
「志渡さん。ⓖあたしを誰だと思ってるの？」
「あ？」
きょとんとした志渡に向かって、まりもは言った。
「志渡銀二郎が見込んだ、唯一の弟子だよ」

（出典　村山由佳（むらやまゆか）「天翔（あまかけ）る」）

（注）志渡――まりもに馬への接し方や乗り方を一から教えた師匠。理沙は、志渡と共にまりもの競技サポートをしている。
漆原――まりもたちをエンデュランスに誘った人物。

①　――の部分ⓒ、ⓔの漢字の読みを書きなさい。

②　「ⓐ何があろうとそれだけはしたくなかった」とありますが、その理由として最も適当なのは、**ア**～**エ**のうちではどれですか。一つ答えなさい。

ア　誰も見ていないからといって安易にルールを破っていると、弱くていいかげんな自分を変えるきっかけを失ってしまうから。
イ　尻をたたいて言うことを聞かせるというかわいそうな行いをしてしまえば、愛馬に対して誠実な自分でいられなくなるから。
ウ　ルールに則（のっと）って正々堂々勝負しなければ、共に苦しんでくれている愛馬に対し負い目なく向き合うことができなくなるから。
エ　禁止されている鞭を使って無理に馬を動かすと、不正を働いたというう しろめたさのせいで完走した喜びが消えてしまうから。

③　――の部分ⓑとⓓの「泣きそうになってしまった」について説明した次の文の［　　］に入れるのに適当なことばを三十字以内で書きなさい。

ⓑは、どうするのが最善なのか判断に迷い、追いつめられたまりもの気持ちを表しており、ⓓは、［　　］というまりもの決断を肯定する獣医師長の言葉や周囲のねぎらいの言葉を聞いて、誇らしさに感極まったまりもの気持ちを表している。

④　「ⓕ今ほどの収穫」とありますが、その内容として最も適当なのは、**ア**～**エ**のうちではどれですか。一つ答えなさい。

ア　エンデュランスにおいて馬と気持ちを通わせて走る楽しさは、完走の喜びを上回ると気づけたこと。
イ　エンデュランスという競技には、技術だけでなくペース配分や駆け引きも不可欠だと気づけたこと。
ウ　エンデュランスで勝つためには、サイファの弱点である体力や走力を上げればよいと気づけたこと。
エ　エンデュランスの経験を積むことが、コースに合わせた戦い方を身につける近道だと気づけたこと。

⑤　「ⓖあたしを誰だと思ってるの？」とありますが、このときのまりもの心情を説明した次の文の［X］、［Y］に入れるのに適当なことばを、［X］は文章中から二字で抜き出し、［Y］は三十字以内で書きなさい。

志渡と共にレースをふり返り、レースの［X］の分析を素直に受け止めると、今度は勝利のための戦略も見えてきたため、次こそは［Y］気持ち。

⑥　この文章の〰〰の表現の特徴について説明したものとして最も適当なのは、**ア**～**エ**のうちではどれですか。一つ答えなさい。

ア　「彫像のように動かなくなってしまった」という直喩表現は、芸術作品のように美しいサイファの立ち姿を印象づけている。
イ　「全部わかっているみたいに」という表現は、まりもが葛藤しつつもレースを続行するはずだという志渡の確信を表している。
ウ　「後ろを付いていっていれば……」という表現は、まりもが先日のレースの別の展開を思い描けずにいることを暗示している。
エ　『現時点での』という『』を使った表現は、志渡がまりものこれからの伸びしろを信じて期待していることを強調している。

2

次の文章を読んで、①～⑦に答えなさい。設問の都合上、本文を一部省略した箇所があります。また、1～3は段落の番号です。

1 日本人が好きな漢詩句に「年々歳々花相似　歳々年々人不同（ねんねんさいさい ⓐはなあひにたり　さいさいねんねんひとおなじからず）」があります。「毎年毎年春になると桜の花は同じように咲く。しかし、その花を見る人は毎年異なるのだ」という意味です。自然の営みは悠久で、季節ごとに繰り返すものですが、それに対して人の命は無常であるというのです。これは藤原公任編の『和漢朗詠集』（寛仁二年〈一〇一八〉頃成立）の無常という部類の中に収録された句で、宋之問の作とされています。しかし、作者をめぐっては有名な逸話があります。実はこれは中国唐代の詩人であった劉希夷（六五一年～六七九年／劉庭芝とも呼ばれました）の「ⓑ代悲白頭翁」と題する長文の漢詩の一節に当たります。この詩を事前に聞いていた宋之問は、自分に譲るように頼んだのですが、すげなく断られました。之問は希夷の母方の親戚に当たる人物でした。これを逆恨みした之問は希夷を下僕に殺させたと言います。何ともすさまじい話です。あくまでも伝説で、到底実話とは思えませんが、詩作に命を懸けていた当時の詩人たちの雰囲気が伝わってきます。日本でも和歌のコンテストである歌合で、平兼盛に敗れた壬生忠見が落胆のあまり病床に着き、遂には死に至ったという逸話が『沙石集』に伝えられています。しかし、『袋草紙』には死までには至らなかったように記されていますし、『忠見集』には晩年の述懐歌も収録されていますので、この話も実話とは考えにくいものです。しかし、こちらの話もⓒ和歌という文芸の数寄者の伝説として、後代にまで喧伝されました。

2 「年々歳々花相似　歳々年々人不同」という漢詩句は桜の開花という自然の営みが悠久のものであるのに対し、人間の命がいかに儚いものであるかを、対句の形式で表現しています。同様の無常観を表現した文学作品は数多くありますが、ここでは『今昔物語集』から一例のみを挙げておきます。「僧仁康、地蔵を祈念して疫癘の難を遁るる語」という表題を持つ話です。疫病が流行した折、京都祇陀林寺の僧であった仁康の夢の中に、地蔵の化身の小僧が現れました。そして、仁康に向かって「あなたは、この世が無常だと思いますか」と尋ねます。それに対して仁康が答えた言葉の一部が、「昨日見し人は今日は見ず。朝に見る者は夕には失せぬ（昨日まで親しく身近に接していた人はもう今日にはその姿を見ない。朝にあった人が夕方にはもうこの世からいなくなってしまう。）」というものです。「昨日」と「今日」、「朝」と「夕」を用いて、短時間の間の無常を表現しています。このように語を対比させて無常を表現するのは常套的な技法でした。（中略）鴨長明『方丈記』にも「朝に死に、夕に生るるならひ、ただ水の泡にぞ似たりける」や「或は露落ちて花残れり。残るといへども朝日にⓓ枯れぬ。或は花しぼみて露なほ消えず。消えずといへども夕を待つことなし」などのⓔ類似した表現があります。

3 我々は親しい人が亡くなったりすると、ⓕ命の無常を痛切に感じますが、医学が発達していなかった古代において、疫病によって多くの人が命をなくす状況を目の当たりにすれば、いやが上にも無常を感じざるを得ないでしょう。それは大震災で一度に多くの人を亡くした現在の私たちにとっても、同様の感慨ではないでしょうか。そういえば『方丈記』前半には多くの災害によって命が奪われたことが記され、それに基づく長明の無常観が表明されています。古代も現代も人間の本質や営みは大きく変わっていないことに改めて気づかされます。

（出典　小野恭靖「古典の叡智」）

（注）喧伝――世間で盛んに言い立てること。

①　「ⓐはなあひにたり」の読みを、現代かなづかいを用いてひらがなで書きなさい。

②　「ⓑ代悲白頭翁」は、「はくとうをかなしむおきなにかはりて」と訓読し、解答欄の「悲白頭」は、その一部です。訓読文を参考に、これに返り点をつけなさい。

③　「ⓒ和歌という文芸の数奇者」とありますが、「数奇者」とはどういう人のことですか。解答欄に合うように文章中から八字で抜き出して書きなさい。

④　「ⓓ枯れぬ」の意味として最も適当なのは、**ア**～**エ**のうちではどれですか。一つ答えなさい。

ア　枯れることはない
イ　枯れそうになる
ウ　枯れてしまう
エ　枯れていた

⑤　「ⓔ類似した表現」の説明として最も適当なのは、**ア**～**エ**のうちではどれですか。一つ答えなさい。

ア　無常を表現する際に、短時間の間の無常に注目した表現。
イ　無常を表現する際に、語を対比させる技法で示す表現。
ウ　無常を表現する際に、命に対する宗教観を根本に置く表現。
エ　無常を表現する際に、比喩や擬人法の技法を用いる表現。

⑥　「ⓕ命の無常」の言い換えに当たる語句を、文章中から十五字以内で抜き出して書きなさい。

⑦　[1] [2] [3] の各段落が、本文構成上果たす役割の説明として最も適当なのは、**ア**～**エ**のうちではどれですか。一つ答えなさい。

ア　[1] では、日本人の好む「年々歳々…」の漢詩句について、その詩作の逸話に触れて、より関心を抱かせる導入とし、[2] では、その漢詩句の主題と表現技法について話を展開し、[3] では、その主題は現代まで人間に共通する本質だと言及している。
イ　[1] では、「年々歳々…」の漢詩句について、その意味の説明を例話を示すことで広く展開して述べ、[2] では、その漢詩句の主題に焦点を当ててさらに深い考察を加え、[3] では、その主題を、身近な体験と結びつけ印象的に説明している。
ウ　[1] [2] では、「年々歳々…」の漢詩句について、日本の和歌や古典作品を例にあげながら、その作品の成立の由来や表現技法について考察し、[3] では、その技法がいつでもどこでも人間にとって共有された普遍的なものだとまとめている。
エ　[1] [2] では、日本人の好む「年々歳々…」の漢詩句について、なぜ日本人が好むのかをめぐって日本の歌人たちの逸話を例にあげながら話を展開し、[3] ではその漢詩句の主題が日本人を超えて人類共通の営みだと確認している。

3

次の文章は、長年ＮＨＫの報道番組でキャスターを務めた国谷裕子（くにやひろこ）の文章です。これを読んで、①～⑥に答えなさい。

正確な答えを引き出すためには、インタビュアーはまさに正確な質問をしなければならない。しかし、明確な定義を持つ言葉を使い、的確な言葉を選択してインタビューを行うには、相当な準備が必要となる。ただ難しいのは、入念に準備をして、その準備のとおりインタビューしようとすると、ⓐ大失敗につながりかねない。一生懸命準備して、一生懸命質問を考えて、頭の中でシミュレーションをする。つまり、こう質問したら、この人はこう答えるだろう、そうしたら次にこう質問して、などと想定問答を練るわけだが、そうすると実際のインタビューでは絶対にうまくいかない。実際のインタビューでそれを実践すると、相手の話が全然聞こえてこなくなるのだ。自分のシナリオばかりに気をとられ、頭の中は「次に何を質問しようか」ということばかりになるから、インタビュー相手の話、ましてやその人全体が発している言葉をヒアすること、聞くことができなくなるのだ。

インタビューでは準備も重要だが、実際のインタビューの場面になったら、いったんその準備で得たものをすべて捨てなくてはならない。そして、相手の話を真剣に深く聞き、その人が何を言わんとしているのか、丸ごと捉えて、そこで出てきた素晴らしい言葉、豊かな言葉、言葉に込められた大事なメッセージをしっかりとつかむことこそが必要なのだ。そこから良い対話が生まれてくる。良いインタビューは、次の質問を忘れて相手の話を聞けたときに初めて行えるものなのだ。これができるかどうかは、キャスターの仕事で最も重要なことなのだが、三〇年近くインタビューを続けてきた私も、今もたびたびこのことで失敗をする。難しいものだ。

二〇〇一年五月一七日に放送した「高倉健（たかくらけん）　素顔のメッセージ」。インタビューのテーマは、高倉健さんが七〇歳を迎えⓑられ、映画の出演も数年に一本というなかで、いま、どのような思いで映画俳優という仕事に向き合っているのか、というⓒバクゼンとしたものだった。インタビューにはめったに応じアられない高倉さんが、しかもテレビでのインタビューに出演していただけるということだけで、制作陣は興奮していた。私にとっては大きなプレッシャーとなって跳ね返っていたのだが。

聞き手であるキャスターが、しっかりとインタビューの準備をしてきたかどうかということは、相手の方はたぶん会って数分で気づく。準備が不十分であることに気づかれたら、おそらく深い話はなかなか出てこないだろう。また、地道な準備を怠ると自分のなかに引け目もできて、相手の方と同じ土俵の上に立てないままインタビューを終えることにもなる。

ⓓこのときも猛烈に準備をした。二〇三本の映画に出演されていた高倉さん。任侠（にんきょう）映画で全盛期を迎えていたとき、私は海外で生活をしていたので、同時代で映画を観ておらず、インタビューに向けて映画をひたすら観続けた。高倉さんについての雑誌、新聞記事、ご本人のエッセイ集、インタビュー記事なども大量に読みこんだ。

しかし、インタビューを始め、質問を重ねても、高倉さんからは短く素（そ）っ気（け）ないとも言える答えが返ってくるだけだった。対話がまったく弾まない。次々に質問を繰り出しながら、どうしようかと焦（あせ）った。

そのうち、「今日は、テレビのインタビューにほとんど応じることのない高倉さんがくださった貴重な機会。覚悟を決めて待とう」と思うことにした。話が途切れても待つ。そうすると、最初のうち高倉さんも黙ったままだ。この沈黙はかなり長く感じイられた。それでも質問せずに待っていると、その沈黙のなかから、高倉さんは語り始めた。

高倉「休みをとって世界中どこへでも行きたいと思えば行けて、いいホテルに泊まって、いいレストランで飯を食って、メニューの値段表

見なくても飯が食えるようにいつの間にかなってしまった。乗る飛行機はファーストクラス、泊まるホテルはスイートって、なんか自然のようになってますけど……（沈黙）

やっぱりこの仕事やってきてよかったと思えることは、そういうことではなくて、鳥肌が立つような感動をした時ですね、あ、よかったなって、自分で。」

国谷「「ホタル」の撮影を終えウられたばかりなんですけれども、これからはどういう作品に出たいと思いますか。」

高倉「まだ頭のなか、何にも考えていないですね。もう嫌でも封切りの日が来ますから、その日が一番辛くなる日なんですけど。でもどっかでいい風に吹かれたいというふうに思いますね。」

国谷「いい風に吹かれたい。」

高倉「はい、いい風に吹かれていたいですね。あんまりきつい風に吹かれてると、人に優しくなれないですね。だからいい風に吹かれるためには、自分が意識して、いい風が吹きそうな所へ自分の身体とか心を持っていかないと。じっと待ってても吹いてきませんから。吹いてこないっていうのが、この頃わかってきましたね。」

このインタビューのなかでの沈黙。あとで計ってみると一七秒だった。わずか一七秒かと思われるかもしれないが、インタビュアーにとって一七秒はとても長い時間だ。沈黙が支配することは、インタビュアーにはほとんど恐怖に近いものがある。このインタビューは幸い、料理屋の庭に面したⓔエンガワでの収録だったため、鳥の声、池を流れる水の音、遠くには庭の外の道路を通る救急車の音さえも聞こえてきた。もし、何の音もしないスタジオの中での収録だったら、この一七秒の沈黙に私は耐えエられなかったかもしれない。

しかし、この沈黙の一七秒は、高倉さんにとって自分の話すべき言葉を探している大事な時間だったのではないだろうか。このインタビューで私は「待つ」ことの大切さを学んだ気がする。間を恐れて、次から次へと質問を繰り出すことで、かえって、良い話を聞くチャンスを失ってしまうかもしれないのだ。

ⓕ「待つこと」も「聞くこと」につながる。高倉さんへのインタビューのとき、私が待つことができたのは、もしかしたら、内田義彦さんの書いていた「聞こえてくるのを待つ」と関係があったのかもしれない。

後日談になるが、番組を観てくださった高倉さんから、あの一七秒の間をそのまま放送で残してくれてありがとう、というメッセージが寄せオられた。

こうして私は次第にインタビューでの対話を楽しめるようになっていった。

（出典　国谷裕子「キャスターという仕事」）

（注）高倉健――日本の俳優（一九三一～二〇一四）。主演した任侠映画がヒットして大スターになった。

封切りの日――新作映画を初めて上映して一般の観客に見せる日。

内田義彦――日本の経済学者。筆者はこの文章より前の箇所で、内田義彦のエッセイの「聴に徹しながら聞こえてくるのを待つ（その人全体が発するメッセージを丁寧に聞く）」という内容にとても納得し、内田さんの言葉を大切にしてきたと述べている。

① ――の部分ⓒ、ⓔを漢字に直して楷書（かいしょ）で書きなさい。

② 「ⓑられ」と意味が同じものは、〰の部分**ア**～**オ**のうちではどれですか。当てはまるものをすべて答えなさい。

③ 「ⓐ大失敗につながりかねない」とありますが、ここでの「大失敗」の内容として最も適当なのは、**ア**～**エ**のうちではどれですか。一つ答えなさい。

ア 想定とは異なる答えが相手から返ってきたときに、臨機応変に次の質問へと切り替えられずインタビューが止まってしまうこと。

イ 事前準備の段階で興味を持った内容にばかり意識を奪われ、インタビュー相手の話の一部分しか聞き取れなくなってしまうこと。

ウ 計画通りにインタビューを進めることに集中するあまり、相手の言葉にしっかりと耳を傾けることができなくなってしまうこと。

エ インタビュー相手が語る感動的なメッセージを聞くことに夢中になって、準備していた質問の内容をすっかり忘れてしまうこと。

④ 「ⓓこのときも猛烈に準備をした」とありますが、筆者がそのようにした理由を説明した次の文の［X］、［Y］に入れるのに適当なことばを、［X］は文章中から三字で抜き出し、［Y］は十字以内で書きなさい。

準備が不十分であると、それに気づいた相手は［X］をしようという気にはならないうえ、インタビュアー自身も気おくれしてしまい、［Y］ことができなくなると考えているから。

⑤ 「ⓕ「待つこと」も「聞くこと」につながる」とありますが、これがどういうことかを説明した次の文の［　］に入れるのに適当なことばを十五字以内で書きなさい。

たとえ沈黙が長く続いても質問をせずに待つことで、語り手の側は［　］が持てるため、結果的にインタビュアーは、語り手の大事なメッセージを聞くことができるということ。

⑥ この文章で述べられた「良いインタビュー」について説明したものとして最も適当なのは、**ア**～**エ**のうちではどれですか。一つ答えなさい。

ア 筆者が事前に相手のことを隅々まで調べつくしていたように、万全の準備をして頭の中でシミュレーションを重ねておくことで、その人の本当に言いたいことをつかみとれる良いインタビューとなる。

イ 筆者が長い沈黙にも全く恐れを感じることなく平然と待っていたように、相手のペースを尊重して自由に語ってもらうことで、その人にしか語れない貴重な言葉を引き出せる良いインタビューとなる。

ウ 筆者が「これからはどういう作品に出たいと思いますか。」と質問したように、相手が語り始めた頃合いで的確な質問を投げかけることで、その人の本音を聞かせてもらえる良いインタビューとなる。

エ 筆者が「いい風に吹かれたい。」と相手の言葉をただそのまま繰り返したように、次の質問に気を取られず相手の話を丸ごと深く受けとめることで、豊かな対話へとつながる良いインタビューとなる。

4

保育園で職場体験をしている中学生の奈月さんは、保育士の佐倉先生と話をした後、考えたことを【ふりかえりシート】にまとめました。次の【佐倉先生との会話】【資料Ⅰ】【資料Ⅱ】を読んで、①～③に答えなさい。

【佐倉先生との会話】

佐倉先生　お疲れさま。子どもたちとたくさん遊んでくれていますね。

奈月さん　はい。でも、「遊び」の時間に遊べない子がいるのが気になりました。自由に遊ぶ時間なのに何をしてよいか分からないみたいで……。

佐倉先生　この保育園では子どもが自分で遊び方を見つけ、それを自分なりに自由に展開していくことを目指しています。けれど、最近はそれができない子が増えてきているように感じます。

奈月さん　それはなぜなのでしょうか。

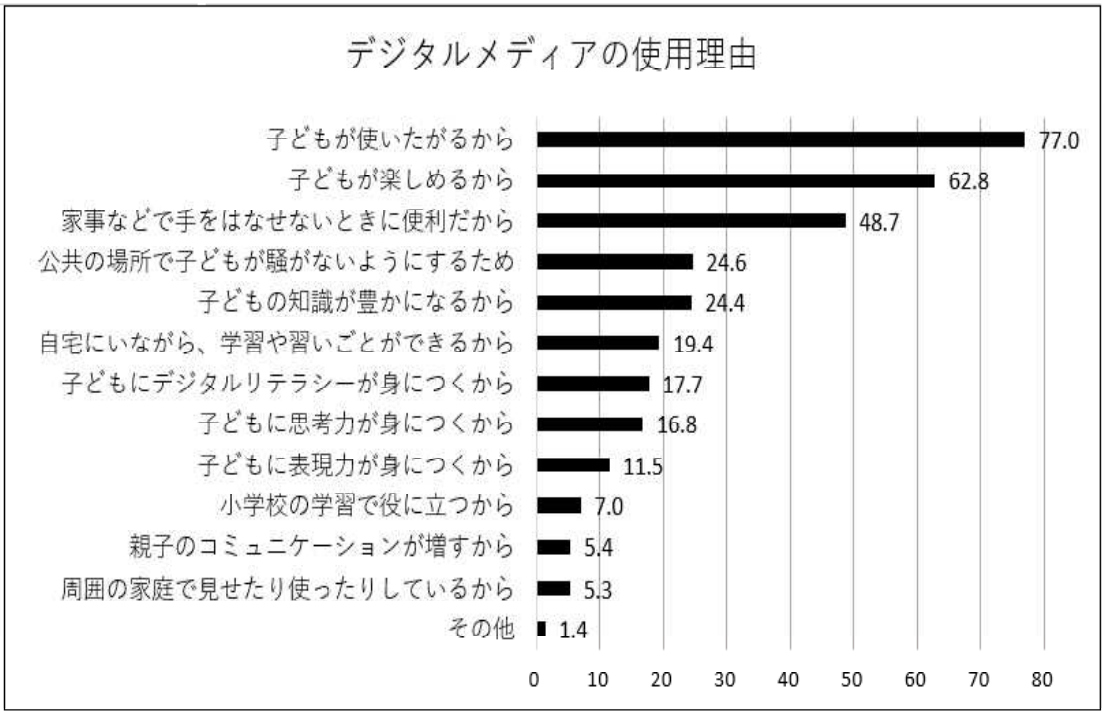
佐倉先生　デジタルメディアを使う機会が増えていることも、要因の一つかもしれませんね。この保育園の子どもたちも、家ではよくデジタルメディアに触れているようです。

奈月さん　保護者が子どもにデジタルメディアを使わせる理由が知りたいです。

佐倉先生　それなら【資料Ⅰ】が参考になりそうですよ。保護者が子どもにデジタルメディアを使わせる理由として、子どもの意向を挙げる割合が高いですが、他に［X］や［Y］など、保護者側の事情も大きいようです。

奈月さん　そうなんですね。遊びとデジタルメディアの問題について、もう少し本などを読んで考えてみます。ありがとうございました。

【資料Ⅰ】



（ベネッセ教育研究所「幼児期から小学校低学年の親子のメディア活用調査」から作成）

①　X　・　Y　に入れることばの組み合わせとして最も適当なのは、**ア**～**エ**のうちではどれですか。一つ答えなさい。

ア　X　子どもが使いたがるから　　Y　子どもが楽しめるから
イ　X　家事などで手をはなせないときに便利だから　　Y　公共の場所で子どもが騒がないようにするため
ウ　X　自宅にいながら、学習や習いごとができるから　　Y　小学校の学習で役に立つから
エ　X　子どもに思考力が身につくから　　Y　子どもに表現力が身につくから

【資料Ⅱ】（奈月さんが見つけてきた本の抜粋）

ある特定の機能を持つおもちゃは、子どもの興味を引きやすい。ボタンを押すとすぐに音楽が流れたり、動き出したりする機能をもつおもちゃに子どもは大きく興味を引かれ、最初のころは熱心に遊ぶ。「脳に刺激を与えるおもちゃ」とか「脳が活性化するおもちゃ」というようなうたい文句が書いてあったら、買う前にちょっと考えてみてほしい。そのように一時的に脳（とくに前頭葉）を活性化させることが、知性の発達や情動の発達に長期的に役立つという証拠は存在しないのである。

おもちゃを選ぶときには、子どもがすぐに飛びつくかということではなく、そのおもちゃを子どもが使う中でどのくらい、いろいろなことを試し、象徴化し、創造の羽をはばたかせられるのかということを考えてほしい。子どもがすぐに夢中になってもすぐに飽きてしまうおもちゃや、一度あるやり方で完成させると他のやり方を考える必要がないおもちゃ、音や動きの刺激が次々と繰り出され、子どもに考える余地を与えないおもちゃは、想像力をかき立てることがあまりなく、創造性を育むことにはつながらないだろう。

（今井（いまい）むつみ『学びとは何か』）

（注）象徴化――ここでは、例えば、子どもがコップのはたらきを理解して、別のものをコップに見立てて飲むふりができるようになること。また、コップに違う役割を与えたり、違う見方をしたりできるようになること。

②　【資料Ⅱ】をふまえた場合、デジタルメディアを使って遊ぶことが子どもに与える影響として考えられるのは、**ア**～**エ**のうちではどれですか。一つ答えなさい。

ア　興味を引かれて熱心に遊ぶ中で、一つのことに集中する力が身につく。
イ　遊びながら脳が活性化することで、知性や情動が長期的に発達する。
ウ　いろいろな遊びを試すのに没頭してしまい、途中でやめられなくなる。
エ　刺激を受けることに慣れてしまい、自分で遊び方を考えなくなる。

③ 【奈月さんのふりかえりシート】の［　　］に入れるのに適当な内容を、**条件**に従って百字以上百二十字以内で書きなさい。

条件

1　二文で書き、一文目には、本来「遊び」とはどのようなものであるかを書くこと。

2　二文目には、「そこで、子どものおもちゃとしては」から始めて、子どものおもちゃとしてふさわしいと思うものと、その理由を書くこと。ただし、おもちゃは次の中から一つ選びなさい。

・スマートフォンやタブレット端末
・スコップやバケツ
・積み木やブロック
・おままごとセットや人形

【奈月さんのふりかえりシート】

◇月×日　△△保育園　職場体験ふりかえり

○気づいたこと　園児の中に自由に遊ぼうとしない子がいた。

○考えたこと　佐倉先生の話や【資料Ⅱ】から、本来「遊び」とは、［　　］

試験問題はこれで終わりです。

受験番号

国語解答用紙

※問いに字数の指定がある場合は句読点や記号も一字に数えて解答すること。

高一般
令 6

1

①
ⓒ
ⓔ（えて）

②

③

④

⑤
Y
X

⑥

2

①
悲白頭

②

③
和歌という文芸
人。

④

⑤

⑥

⑦

3

①
ⓒ
ⓔ

②

③

④
Y
X

⑤

⑥

4

①

②

③
佐倉先生の話や【資料Ⅱ】から、本来「遊び」とは、
120字
100字